

2022年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ホザナ・ハウス

自立援助ホーム カリス・ホーム

代表者・役職名 氏名 代表理事 大塚 治道

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

自立援助ホーム「カリス・ホーム」運送車両購入事業

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2010年にホザナ・ハウスは神戸弟子協会の有志が集い少年院などからの退所者自立支援のために設立され、幼少期に劣悪な環境や生きづらさを持つ子など、児童養護施設等の退所児童たちの自立支援、また犯罪の未然防止を目的としています。カリス・ホームは2017年4月開所され現在利用定員9名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

施設が急斜面にあり、近隣の商業施設まで徒歩で片道30分以上かかるなど、自動車を使用できないと日常の業務に支障が出ると考えられ、児童の病院受診や行政手続きなど職員同行のサポートが必要な場合も多く公共交通機関の利用では業務の利便性が劣るためです。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ホンダフィット平成24年製を購入し、日常の買い物、児童の送迎など新規車両導入による業務効率の向上、安全性の向上が期待できる。一日に数回の利用が見込まれます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ほぼ毎日利用し、大量の食材、日用品の買い物児童の送迎及び、体調不良時の病院受診、内科通院では車内での待機としても利用でき、緊急性がある場合も車両があることで、児童も体調不良で夕方の受診を翌日まで延ばすなど児童自身も気を遣うこともありませんでしたが、今は無駄な遠慮は減り通院意思を示しています。ホームからJRまで距離があると同時に急な電車遅延、運転見合わせが頻発し学校、バイトでJRを利用する児童もおり、私鉄への送迎を行うことができ遅刻せず継続してバイトを続けられています。学業・バイトを続けることで自信に繋がりと、成功体験の積み重ねで短期間しかバイトが続かなかった児童が現在もチャレンジする気持ちが出てきています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

車両購入ができたことで、職員、児童とも活動範囲の拡大、時間短縮などの実行が可能になった。今後も引き続き児童の支援に活用していきたいと思ひ、今後日常生活以外の支援にも活用できることを児童と一緒に考えていきたいと考えています。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

